

# グアテマラ・スペイン語の待遇形式

堀田 英夫

## Formas de tratamiento del español en Guatemala

HOTTA Hideo

### 1. はじめに<sup>1)</sup>

Diccionario Panhispánico de Dudas (汎スペイン語圏疑問辞典、以下 DPD と略称する) (2005) は、スペイン語の使用に関して、どのような形を使ったらよいかという疑問に答えるべく、スペイン語圏各国22のスペイン語学士院 (Academia)<sup>2)</sup>が一緒になって編纂し、書籍とインターネット上のオンライン <<http://www.rae.es>> 両方で出版されたものである。スペイン語の標準形に関して、スペイン1国のみではなく、スペイン語系アメリカ諸国も含めて、スペイン語圏全体の規範を定め、スペイン語の発展と普及を図ろうとするスペイン語学文学界の意識の方向に沿った事業の1つである。

どのような形を規範とするかの基準、あるいはその基準を定める主体がだれであるかという点は、18世紀のスペイン王立学士院創設期の、権威ある文筆家の文章をモデルとし、それに従うべきとした規範主義とは異なっている。膨大なスペイン語コーパスを材料にして、多くの話し手、書き手に広く認められている用法・語形を標準形としている。ある形や用法を絶対的なものとして強制するのではなく、スペイン語圏全体の統一を維持していくためによりふさわしい語形・用法の使用を推奨するという態度が序文から読み取れる。地域差についてもその存在を認めつつ、標準形と地域独特の形を区別できるようにするという姿勢である。

この辞書の voseo<sup>3)</sup>についての記述では、スペイン語圏全体の観点、すなわちこの辞書編纂の目的から、方言 (dialectal) としつつも、教養ある階層の規範として認められる程度に応じて、3つに分類している。

1) ペルー、ボリビア、赤道地帯 (すなわち、エクアドル、コロンビア、

ベネズエラ)、パナマ、メキシコ、アンティル諸島では、voseo 使用が権威を持たず、教育を受けていないことを示す。(DPD: s.v. voseo 2.4.1.)

- 2) パナマ以外の中米では、教養ある階層の規範として認められているが、親しい者同士特有の形式とされている。一方 tuteo は、権威ある規範であり、中程度の格式張った状況で推奨される規範である。

ニカラグアとコスタリカでは、書きことばでは、tuteo の方が権威ある。

チリでは、voseo 動詞形は、家族内でのみ、教養ある階層の規範として認められている。中程度の格式張った状況では tuteo の方が権威ある。代名詞形はそれほど認められていない。(DPD: s.v. voseo 2.4.2.)

- 3) ラプラタ諸国では、書きことばでも話しことばでも、教養ある階層の規範として完全に受け入れられ、アルゼンチン学士院によって正当な語形として、明示的に認定されている。(DPD: s.v. voseo 2.4.3.)

外国語学習の目的の1つが、その言語を母語としている人たちとコミュニケーションすることとするならば、上記1) で示される地域、すなわち、ペルー、ボリビア、エクアドル、コロンビア、ベネズエラ、パナマ、メキシコ、キューバ、ドミニカ共和国、プエルトリコの人たちとスペイン語でコミュニケーションするためには、特別な理由がない限り、voseo を知る必要はない。上記3) で示されるアルゼンチンやウルグアイで生活し、現地の人たちとコミュニケーションするためには、voseo を知っている必要がある。

上記2) で示される地域は、voseo と tuteo のどちらも規範とされ、地域によって tuteo についての規範のされかたに違いがあるという記述である。すなわち、(i)グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラスと、(ii)ニカラグア、コスタリカ、それに(iii)チリと分けて記述されている。これらの地域のスペイン語を母語としている人たちとの現地での円滑なコミュニケーションのためには、もう少し詳しい使い分け方を知る必要があると思われる。

(i)グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラスでは、voseo は、親しい者同士独特の形式として教養ある階層の言語規範として認められているが、同時に tuteo も権威を持った規範であり、中程度の格式張った状況で

推奨される規範とされている。中程度という意味は、voseo 使用と usted 使用との中間という意味である。これら vos, tú, usted の3つは、具体的にはどのように区別されているのであろうか。本稿では、この区別について、中米(i)のグループのうち、グアテマラを取り上げ、先行研究および文献資料を基に調べることにする。

## 2. グアテマラ・スペイン語

グアテマラ共和国の国土は、面積108,890km<sup>2</sup>で、メキシコ、ベリセ、ホンジュラス、エルサルバドルと国境を接し、カリブ海と太平洋の海岸がある。グアテマラ政府の2004年7月の推定では、14,280,596人の総人口のうち、43%が先住民言語（大部分がマヤ諸語）を母語としている。これらの住民の中には、様々なレベルのスペイン語との二言語話者がいるが、その数は不明とのことである<sup>4)</sup>。北部は、これらマヤ諸語を母語とする住民が居住している地域で、最もスペイン語が話されていない地域である。

グアテマラは、北は、現在のメキシコ国チアパス州から、南はコスタリカまでを含むグアテマラ総監領 (Capitanía General de Guatemala) の首都が置かれた地である。形式的にはヌエバ・エスパーニャ副王領 (Virreinato de la Nueva España) に属していたが、金銀などの鉱物資源にとぼしく、スペインからの大きな介入もなく、そのため、副王領の首都（現在のメキシコ市）からかなりの自立性を持っていたとのことである (Lipski, 1994: 262, Benavides, 2003: 618)。したがってスペインでの言語変化のある部分を受け入れたメキシコやペルーと異なり、voseo が残ったと考えられる。Lipski (1994: 264, リプスキ, 2003: 276) によると、通常「グアテマラ・スペイン語」として記述されるのは、グアテマラ市とその周辺の高地地方の中流、上流階級のスペイン語単一言語話者のスペイン語であり、「民衆グアテマラ・スペイン語」として言及されるのは、「ホンジュラスとエルサルバドル国境付近」<sup>5)</sup>の地方で、スペイン語話者が優勢の地域のスペイン語とのことである<sup>6)</sup>。また地域差よりも社会階層による差の方が顕著としている。以下、まず、グアテマラ・スペイン語のいくつかの特徴について、Quesada (1996: 101-115) による中米スペイン語、Lipski (1994: 262-266) によるグアテマラ・スペイン語の記述により見ていく。

## 2.1. 音 声

スペイン語系アメリカ全体の特徴としての seseo と yeísmo の他に、以下のような特徴が指摘されている。

- 1) 他の地域にもあるが、中米スペイン語一般の傾向として、アクセントのない母音の音色が変わる傾向があり、特に農村で強い。dispertar (despertar), sepoltura (sepultura)
- 2) 中米スペイン語一般の傾向として、母音連続 (hiato) を避ける。二重母音化 (patear → patiar) と [j] 音の挿入 (batea → [batéja]) がある。後者は、グアテマラの社会階層によっては良くない発音とされる。
- 3) 音節末閉鎖音は、母音化 ([diréjto]<sup>7)</sup> directo, [káusula] cápsula)、子音を別の子音にする ([aksolúto] absoluto, [íjno] himno)、消失 ([estráño] extraño, [konséto] concepto) の3とおりの変化が観察され、母音化は、農村地帯で多く、他の2つは、あらゆる社会階層で見られる。
- 4) 有声音 /b/, /d/, /g/ は、母音間でのみ摩擦音で発音される。他の子音と隣接した環境では、地域により頻度が異なるが、閉鎖音から摩擦音まで間のいずれかで実現される。[kálbo - kálβo], [déuda - déuða] グアテマラにおける子音の後ろでの摩擦音化は、ホンジュラスとエルサルバドルよりも広がっている。母音間の /d/ の消失は見られない。
- 5) 唇歯摩擦音 /f/ は、普通、無声両唇摩擦音 [ɸ] で発音される : [ɸwe] fue, [kaɸé] café. 農村地帯では、[h] の発音もある : [dihúnto] difunto, [hwérte] fuerte.
- 6) 音節末と語末の /s/ は、幾分そり舌の音、あるいは舌先音で発音されるが、メキシコ中央部と同じくらいの比率で保持されていて、中米のどんな方言よりも保持されている。エルサルバドルとの国境沿い、太平洋岸、そしてベリーズとの国境近くでは、子音の前、あるいは音節末の /s/ の弱化が観察される。
- 7) 後部摩擦音 /x/ は、弱く、咽頭あるいは喉頭摩擦音 [h] となるか、しばしば消失する : trabajo → [traβáo]
- 8) 中米スペイン語一般として、語末の /n/ は軟口蓋化されている : [pan] pan, [korasón] corazón.
- 9) /tr/ を歯茎摩擦音で発音するのは、グアテマラ中央部で一般的である。entre のように子音の後ろで、特に多い。しかしコスタリカほど頻繁ではなく、若い世代では後退しているようである。

- 10) 音節末の /r/ は、グアテマラ中央部で多く歯擦音化される。これは、都会の若者の間では少ない。
- 11) /rr/ は、摩擦音で実現される。ブエノスアイレスの /y/ に似た前部硬口蓋摩擦音 [ʝ] からそり舌音までの発音がある。
- 12) コスタリカとパナマ以外の中米に広がっているが、母音間の /y/ は、/i/ または /e/ と隣接していると消失する : capilla → [kapía], silla → [sía].

## 2.2. 統 辞

グアテマラとエルサルバドルで *una mi amiga* のように、名詞の前で、不定冠詞と所有形容詞が並ぶ形が報告されている。スペイン語系アメリカ一般のように、直接目的語 *lo, los, la, las*、間接目的語 *le, les* を区別しているが、格式張った話し方のときや *se* と一緒に用いられるとき *leísmo* (人を表す直接目的語に *le* を用いること) が見られる。同じく他の地域にもあるが、間接目的格と直接目的格両方の代名詞が使われる文で、後者 *lo, la* を間接目的格の複数に合わせて *los, las* とすることがよく見られる : *él se las dio*. (*se* = “a los muchachos”, *las* = “la carta”)

## 2.3. 語 彙

Lipski (1994: 266) は、グアテマラ独特の語として、*canche* (金髪白肌の)、*chapín* (グアテマラ人/の)、*chirís* (幼児)、*chirmol* (ソースの一種)、*chojín* (サラダの一種)、*mesho* (金髪の)、*patojo* (幼児)、*trobo* (酔った)、*zafada* (言い訳) をあげている。

*chapín* という語は、*chapina, chapines, chapinas* と性数変化をし、形容詞(グアテマラの)としても、名詞(グアテマラ人)としても使われる。Armas(1971, s.v. *chapín*) より例文を引用する。

Los chapines somos centroamericanistas.

Papá es español, pero yo soy chapina.

La tierra chapina es bella y pintoresca.

El chiste chapín es ingenioso.

他にグアテマラのスペイン語を話す住民を意味するのに、*ladino* という語が使われる。これは、外観は先住民と同じでも、スペイン語を話し、先住民とは異なる生活様式を持つメスティーソ(先住民とスペイン人との子孫)を意味し、先住民 (*indio*) や黒人 (*negro*) とは区別される。

### 3. グアテマラ・スペイン語の待遇形式

中米スペイン語の最も顕著な特徴の1つは、待遇形式であると Quesada (1996: 106) は言っている。距離を保つ、あるいは、敬意を表すのに *usted* を使うという点は、他のスペイン語圏と違いはない。しかし、仲間意識や愛情、親近感を表すのに、*vos*, *tú*, *usted* を使う3とおりの形式(それぞれ *voseo*, *tuteo*, *ustedeo* と呼ぶ)があり、国や社会的状況によって違いがあるとしている。グアテマラからパナマの西部(コスタリカとの国境地帯)まで *voseo* は広がっている。学校教育では、*voseo* は取り入れられず、その使用をとがめられるため、書きことばやマスコミにはあまり使われていない。

#### 3.1. Voseo の代名詞形

代名詞形は、主格、前置詞格に *vos*、目的格に *te*、所有形容詞に *tu*, *tuyo* が使われていて、DPD (p. 672) に *voseo dialectal americano* として示されているものと同じ語形である。以下、Armas (1971) からの引用は、項目名でのみ示す。

主格 *vos*: ¡Qué chichona, verdad? Yo trabajo, y vos jugás. (s.v. chichón, na)

前置詞格 *vos*: Y a vos, chingón, qué te importa lo que haga? (s.v. chingón, na)

Con vos no hay ayuda; no hacés más que farolear. (s.v. farolear)

目的格 *te*: El patrón no te quiere por lo alegador que sos. (s.v. alegador)

A vos no te cuentan nada; como sos un farolero. (s.v. farolero)

Ya que te metiste a esto, aguantate, viejo. (s.v. aguantarse)

¿Querés tomarte un chiriflís, hermano? (s.v. chiriflís)

所有形容詞 *tu*, *tuyo*: Dicen que tu mujer te tiene del ala, vos. (s.v. cojón)

Al patrón le disgustan tus chaquetazos, vos. (s.v. chaquetazo)

Juan, vos me dijiste que mi próximo profesor sería el Sr.

Martínez ¿y quién va a ser el tuyo? (Martínez 2003: 52)

エルサルバドルとその近くのグアテマラでは、文末に *vos* などの語を使う用法がある。Lipski (1994: 260) は、「会話に区切りをつけるための *vos* や *usted* の冗語的用法」(リプスキ, 2003: 272)、Quesada (1996: 107) は、“con

valor expresivo” (愛情を表す、あるいは表現力を増すため)、Martínez (2003: 40) は、呼格の vos としている<sup>8)</sup>。

¡Qué bueno, vos! (Quesada, 1996: 107)

¿Qué tal vos? ¡Gracias vos! (Martínez, 2003: 40)

¡Qué fiero es ese viejo de tu suegro, vos! (s.v. fiero, ra)

### 3.2. Voseo の動詞形

Voseo では、2 人称単数動詞形と 2 人称複数形起源のいずれかの動詞形を用いるのが一般的である。グアテマラに関して、DPD (p. 676) に直説法現在形、点過去形、未来形、接続法現在形、肯定命令形が示されている。

直説法現在形：cantás, comés, vivís

点過去形：cantastes, comistes, vivistes ~ cantaste, comiste, viviste

未来形：cantarés, comerés, vivirés

接続法現在形：cantés, comás, vivás

肯定命令形：cantá, comé, viví

グアテマラ・スペイン語で 2 人称複数形起源の動詞形にはどのような形が使われているか、まず 2 人称単数形とはっきり区別できる直説法現在形、接続法現在形、肯定命令形の 3 つを Armas (1971)、Quesada (1996)、Martínez (2003) などで見してみる。

1) 直説法現在形では、スペインのスペイン語 2 人称複数形活用語尾 (-áis, -éis) の二重母音に対して短母音であり、-ar 動詞は -ás、-er 動詞が -és、-ir 動詞は 2 人称複数活用語尾と同じ -ís である。

acabar: Ya no acabás de contar lo que viste. (s.v. guanaco)

largar: ¿Cuándo te largás de aquí, desmostolado? (s.v. desmostolado)

saber: ¿Sabés que secuestraron al embajador inglés? (s.v. díceres)

poder: Vos no podés con Elvira; con lo aguacate que sos. (s.v. aguacate)

querer: ¿Para qué querés ese alicrejo de mujer, viejo? (s.v. alicrejo)

abrir: No seás guanaca; por todo abrís la boca. (s.v. guanaco)

decir: No extraña lo que decís; sos una chontal. (s.v. chontal)

seguir: Si me seguís fregando te ensarto este chute. (s.v. chute)

不規則形として、ser があげられる<sup>9)</sup>。

Vos sos un chingado ladrón. (s.v. chingado)

Haber の現在形は、Martínez (2003: 48) では、2 人称単数形と同形が示されている。

Vos has trabajado.

しかし、Kany (1951: 87, 88) には、habís の語形が引用されている。

“habla un castellano antiquísimo: vos, habís, tené, andá” (Salomé Gil, *Cuadros de costumbres*, Guatemala, 1935, 1937 citado en Kany, 1951)

“creémelo: habís de cambiar de profesión” (Wyld-Ospina, Carlos, *La tierra de las Nahuyacas*, Guatemala, 1933, p. 284 citado en Kany, 1951)

また、Páez (1981: 79) にも、“vos habés” の代わりに、“vos habís” がしばしば聞かれるとある。この語形については、調査が必要である。

2) 接続法現在形も同じく、スペイン・スペイン語 2 人称複数形活用語尾 (-éis, -áis) の二重母音に対して短母音であり、-ar 動詞は -és、-er/ -ir 動詞は -ás である。

entrar: No entrés a la oficina; el hombre está furioso. (s.v. hombre)

pensar: Me alegro que vos pensés igual que yo. (Martínez, 2003: 50)

poner: No pongás esa taza de café sobre la silla. (Martínez, 2003: 46)

venir: A mí no me vengás con tonterías, cabrón. (s.v. cabrón)

decir: Hablá claro y no digás sólo cabronadas, viejo. (s.v. cabronada)

3) 肯定命令形は、スペイン・スペイン語 2 人称複数形活用語尾から -d を除いた形となる。

ayudar: Ayudá con las valijas; no seás desacomodado. (s.v. desacomodado)

aguantar: Ya que te metiste a esto, aguantate, viejo. (s.v. aguantarse)

hacer: Si comés mucho, hacé ejercicios para no engordar. (Martínez, 2003: 44)

poner: Poné a destilar esa agua, Rosa. (s.v. destilar)

venir: Venite, viejo; echémonos un capirolazo. (s.v. capirolazo)

肯定命令不規則形として、ir の肯定命令形は、andar の肯定命令形と同形となる。

ir: Ustedes vayan a la farmacia y vos andá al mercado. (Martínez, 2003: 44)



4) 線過去形、過去未来形、接続法過去形は、スペイン・スペイン語 2 人称複数形活用語尾の二重母音に対応する短母音を持った形は 2 人称単数形と同形であり、その使用語形の起源がどちらであるかを定めることができない。

entrar 線過去形: ¿A qué hora entrabas vos a la Universidad? (Martínez, 2003: 44)

trabajar 過去未来形: ¿Trabajarías vos por mí esta noche? (Martínez, 2003: 46)

haber 接続法過去形と過去未来形: Si vos hubieras visto este libro antes, lo habrías comprado. (Martínez, 2003: 50)

5) 直説法点過去形は、DPD (p. 676) に示されているように、2 人称単数形と同じ形と -s がついた形の 2 つがある。まず 2 人称単数形と同じ形が使われている例をあげる。

trabajar: Vos trabajaste. (Martínez, 2003: 42)

meter: Ya que te metiste a esto, aguántate, viejo. (s.v. aguantarse)

hacer: Sos un chambón; ve lo que hiciste. (s.v. chambón)

Páez (1981: 79) では、点過去形は、-s のついた形 (vos tomastès, vos comistes, vos vivistes) のみを掲げている。Kany (1951: 88) には両方 (dejastes, matastes, fuistes, hiciste) が引用されている。

Martínez (2003: 42) は、「何人かの人、tú の形に語尾に -s がついた形を使う。正しくないがよくある」(No es correcto pero muy usual) と記している。そして、この影響で vos にも -s をつけた形を使うとしている。

¿A dónde fuistes tú anoche?

¿A dónde fuistes vos anoche?

¿Dónde comistes tú ayer?

¿Dónde comistes vos ayer?

この -s のついた語形がスペイン・スペイン語 2 人称複数形起源であるかどうかは決められない。主語が tú のとき -s のついた語形が使われることがあるということから考えると、肯定命令形以外の他の時制 (直説法現在、線過去、未来、過去未来、接続法現在、過去) すべてで 2 人称単数には、-s がつく語形が使われているという体系の圧力も考えられる。

#### 6) 未来形

DPD (p. 676) に示されているのと同じ語形 (-rés) が、Carricaburo (1977:

43) でも「広がっている」とされている。しかし Martínez (2003: 44) には、2人称単数形と同形があげられている。

Vos sabrás cómo usar todos los tiempos gramaticales en español.

どちらの語形が、どのように分布しているかについては、今後の課題とする。

### 3.3. Vos, tú, usted の価値

Pinkerton (1986) は、1979年のグアテマラ滞在中の観察、1982年8月に実施した36人対象のアンケート結果から、グアテマラの ladino のスペイン語では、vos を使うか tú を使うかの使い分けにおいて、話し手および話し相手の性が強い要因として働いているとしている。

	女性話し手	男性話し手
女性を相手	usted tú	usted tú
男性を相手	usted tú	usted vos

話し相手の性も要因として働いているので、男ことばとか女ことばという違いではない。男性インフォーマントで男性に tú を使うと答えたのは1人もいない。男性が男性に tú を使うのは、男らしくない、時にはホモセクシュアルと考えられている。何人かの男性が男性同士 tuteo を使うのはおかしいとか性的意味があると答えたのに対し、7人の女性インフォーマントは、男性同士使うのはおかしくなく、教養ある印であると答えた。1人の女性は、彼女のまわりでは、男性同士は、tuteo をお互いに使うのは適切でないとい彼ら自身は思っているが、彼女自身は、不適切と思わないと書いている。

女性でも若い人たち、女子大学生達は vos を使うことが広がりつつあるという印象を持った。3人の女子大学生だけが vos は使わない、しかしまわりでよく使われていると書いている。多くの女性(19歳から36歳の間)が vos を使い、避けるべきこととは思っていないが、10人の男性は、女性が vos を使うのは不適切と、8人の男性は、女性は vos を使うが、“un poco vulgar” (少し下品)、“un poco grosero o pesado” (少し粗野あるいは不作法) で、主に若者達に使われると書いている。

Pinkerton (1986: 697-698) には、この研究の基となったアンケート用紙の見本が示されている。それには、22の相手・状況において、usted, tú, vos の代名詞主格形のうちどれを使うかを答えてもらう調査票である。この調査方法では使用する動詞形がわからないという点でまだ不十分なものである。Pinkerton は、表 2 (Figure 2, p. 693) で、主語 tú および vos の場合の動詞形を示している<sup>10)</sup>。

男性 ladino	年配女性 ladina	若い女性 ladina
usted	usted	usted
tú + {単数動詞形}	tú + {単数動詞形}	tú + {単数動詞形}
	tú + {複数起源動詞形}	tú + {複数起源動詞形}
vos + {複数起源動詞形}		vos + {複数起源動詞形}

Voseo は、学校へ行く前に周りの話しことばから習得し、日常的に使用する。学校教育では、教材も tuteo であり、この形を習うとのことである。それで voseo から tuteo への過度的な語形として tú + {複数起源動詞形} が使われる。女性は、tú comes, tú comés, vos comés の三とおりの選択肢があると Pinkerton (1986: 693) は書いているが、もし tú + {複数起源動詞形} が教育による過度的な語形とすると、男性が tuteo を使用しようとするときにもこの形が使われる可能性があるはずである。

Usted, tú, vos の 2 人称代名詞使用における 3 段階の区別について、Pinkerton (1986: 694) は、丁寧さ (politeness) の度合いによるものとしている。Usted は最も丁寧な語形で、話し手と話し相手の間に距離を置く形式である。「親しさ」を示す tú と vos とでは、tú が学校教育で教えられる形ゆえに上品で丁寧な、「正しい」形式と認識され、vos は、親密さを表し、信頼関係がある者同士で用いられる形式としている。女性だけがいる場面で vos を使ったとしても、男性がいる場所では、女性は、丁寧さを示すため tú を使う、一方男性も女性には、丁寧に話すため tú を使う。男性同士は、親しくなれば、usted から直接 vos 使用になる。男女のカップルも 2 人だけのときは vos で話しても、他人がいるところでは、tú を使う。見知らぬ男性から街中で vos で話しかけられると女性は、侮辱と感じる。

Pinkerton (1986: 695) には、堀田 (2003) で見た Costa Rica にあるような親称の usted の報告も含まれている。若い母親が自分の子供に usted, tú, vos の 3 つの形を数分間に使っているのを何度か観察したとのこと。ま

た年配の夫婦が通常はお互い *tú* を使っているが、2人だけの親密な時間には、*usted* を使うとのことである。Pinkerton (1986: 695) は、これらを代名詞が持つ意味を選択して使っているのではなく、使用語形を変えること自体に価値を持たせていると解釈している。

Quesada (1996: 107) は、グアテマラとエルサルバドルで、*tú* は、仲間意識 (*solidaridad*) を示す印であるが、親密さ (*familiaridad*) は示さない。気心の程度により、*usted*, *vos*, *tú* の三次元体系となっているとしている。

### 3.4. スペイン語教材における *vos*, *tú*, *usted*

グアテマラ教育省が、スペイン語が母語ではない先住民の子供たちにスペイン語を教えるためのプロジェクトの1つとして作成出版した子供のためのスペイン語教材の教師向けの説明部分 (Soto, 2003: 6) には、自然な会話で使われる形を示したとし、口語表現では代名詞 *vos* を使っても良いと書いている。

“Las expresiones coloquiales pueden usar el pronombre *vos*, con sus respectivas formas verbales, tal como se usa en el lenguaje familiar, porque es así como se usa naturalmente en estas situaciones.

EL USO DEL PRONOMBRE VOS NO ES INCORRECTO, el maestro o la maestra debe enseñar las formas de *tú* y *usted* y explicar, cada vez que sea necesario, en qué situaciones es adecuado el uso de cada forma.” (口語表現は、代名詞 *vos* とその動詞形を使っても良い。それがうち解けたことばで使われるもので、このような場面で自然に使われるものであるからである。代名詞 *vos* の使用は間違いではない。教師は、必要なたびごとに *tú* と *usted* の形を教え、それぞれどのような場面で使うのが適切かを説明しなければならない。)

しかしながら、*vos* の使用は間違いではないということを大文字で強調しているところに、教育において *voseo* の形を教えるかどうかということの合意がまだ得られていないのではないかと推測できる。上記プロジェクトによる小学校前教育用 (Preprimaria) と小学校1年次用 (Primero) 教材で使われている表現には、*voseo*, *tuteo* それに *usted* が主語と思われる3人称動詞形の3つが出てくるけれども *tuteo* が大部分である。話し相手を表現している部分が含まれていて、かつ *tuteo* か *voseo* かを区別できる40数文のうち、*voseo* は、代名詞形で1つ、動詞形で2つがあるのみである。

1) Voseo の使用：(以下の例のみ)

家の中で母親から娘(少女)に、(Soto, 2003a: 28)

Lucia, ¿Podés pasarme ese pichel?

野原で少年同士の会話 (Soto, 2003a: 46)

Hola Jorge, ¿Qué haces?

Estoy arreglando mi trompo vos. ¿Querés jugar conmigo?

2) Usted の使用：子供が親へ、年配男性から見知らぬ青年へ、子供が店員女性へ、生徒が教師へ。

家の中で少年が母親に (Soto 2003a: 46)

Mamá, ¿Quiere que la ayude en la cocina?

通りで、年配男性が、後ろから歩いてくる若者に (Soto, 2003a: 11)

¿Tiene prisa por pasar?

商店で、少年がお店の女性に話し、女性が少年に話す (Soto, 2003a: 25)

Doña Sara. Por favor véndame dos huevos, medio litro de aceite y un jabón.

教室で、男子生徒から女性教師へ (Soto, 2003b: 3)

Maestra, ¿tiene un lápiz?

教室で、男子生徒が男性教師に (Soto, 2003b: 35)

Yo no puedo, maestro, ayúdeme por favor.

3) Tuteo の使用 (最も多くの文例がある)：生徒同士、男性同士、母親から子供へ、教師から生徒へ、大人の店員から子供へ。

少年が少女にたずね少女が答える (Soto, 2003a: 34)

¿Cuántos años tienes Rosa?

Yo tengo seis años. ¿Y tú?

お話しの中で、うさぎと蟹の会話 (Soto, 2003a: 23)

Como tú eres más lento te voy a dar diez pasos de ventaja.

教室の中で、屋外に出よう指示した後、男性教師が男子生徒に (Soto, 2003b: 35)

Jorge, pon una hoja de papel en cada puesto, por favor.

お話しの中で、男性が友人の男性へ (Soto 2003a: 17)

Ayúdame a traerlo y te doy la mitad.

Pinkerton (1986) の調査結果から、vos が現れても不思議ではない状況、すなわち男性同士の発話においても tuteo 使用の方が多い。これはグアテマラにおいて voseo が、まだ教育のモデルとなるまでの威信を完全に持つまでにはいたっていないことを示しているように思われる。

Vos, tú, usted の価値について、以上を見てきたことから、各形式使用の要因が働いている場合を +、働いていない場合を - として表し、表にすると次のようにまとめられる。

	vos	tú	usted
親密 familiaridad	+	+	-
仲間意識 solidaridad	+	-	-
丁寧さ cortesía	-	+	+
よそよそしさ distanciamiento	-	-	+

## 4. ま と め

グアテマラにおける待遇形式は、vos, tú, usted の3とおりが使い分けられている。Vos の代名詞形は、他のスペイン語系アメリカ語地域と同じであるが、文末に vos を置く独特の用法があることがわかった。Vos と tú については、丁寧の度合いにより、使い分けられていること、丁寧さへの配慮は話し手と話し相手の性別、あるいはその場に他人がいるかどうかといった要素で変わってくる。それに伴って代名詞形やそれに一致する動詞形の使い分けがされている。

また同じ語形 (例えば usted) がよそよそしさを表したり、親密さを表したりするのは、普段使っている待遇形式を別のものへ変えること自体に価値が込められている可能性がある。Voseo は、グアテマラ・スペイン語においては、家族内や仲間内、特に男性同士では普通に使われていて、また、女性も身内以外のいるところで若年層において使用が広がりつつある語形であるが、教育におけるモデルとなるまでの権威を持つまでにはいたっていない。

これらのことをふまえ、中米の他地域のスペイン語も含め、さらにこれ

ら待遇形式の実際の使い分けについて調べ、その原理を考察することを今後の課題としたい。

## 注

- 1) 本稿は、科学研究費補助金「遠隔通信と e-learning を組み込んだスペイン語教育用教材」(基盤研究(C)、課題番号: 17520388、研究代表者: 堀田英夫、研究分担者: 糸魚川美樹、塚原信行、平成17, 18年度)による研究成果の一部である。
- 2) 書籍版にはスペイン王立学士院、スペイン語学士院連合、それに(書籍版について)サンティヤーナ出版社(Santillana Ediciones Generales, S. L.)の3つの著作権表示がされている。
- 3) Voseoを“el empleo de la forma pronominal vos para dirigirse al interlocutor”(話し相手を示すのに vos という代名詞形を用いること)と定義し、“Voseo reverencial”(敬意の voseo)と“Voseo dialectal americano”(米州方言の voseo)との2つに分け、後者を“el uso de formas pronominales o verbales de segunda persona del plural (o derivadas de estas) para dirigirse a un solo interlocutor. Este voseo es propio de distintas variedades regionales o sociales del español americano y ... implica acercamiento y familiaridad”(2人称複数代名詞・動詞形あるいはその派生形を1人の話し相手を示すのに使うこと。この voseo は、米州スペイン語の地域的社会的変異固有であり、親近感を含意している)と説明している。目的格や所有形容詞で2人称単数形を用いること、動詞形も2人称単数形が用いられることがあること、複数の話し相手を示すのに vosotros と2人称複数動詞形が用いられないということは含まれていない。
- 4) 面積は、日本国外務省各国情勢「グアテマラ共和国」。他は、Helmberger (2006: 69)
- 5) “southwestern regions near the Honduran and Salvadorian borders” (Lipski, 1994: 264), “las regiones sudoccidentales cercanas a las fronte ras con Honduras y El Salvador” (Lipski, 1996: 283) とあるが、ホンジュラスとエルサルバドルとの国境は東部であり、西部は、メキシコと接している。
- 6) Diccionario Enciclopédico Espasa (1978: s.v. Guatemala)によると、グアテマラの22の県(Departamento)は、4つが中央部、5つが北部、7つが西部、4つが東部、2つが南部といった各地域に分類されている。この地域分けと、リプスキの述べる地域とが一致しているかどうかは、今後の言語地理学の観点からの調査によらなければならない。
- 7) 音声表記は、Quesada (1996: 101-115)の表記を元に国際音声記号で表した。

- 8) Armas (1971) には、“viejo”を同じように使った例文も多く掲載されている。Este trabajo te salió huevón, viejo. (s.v. huevón)
- 9) 動詞 estar と ir の直説法現在形は 2 人称単数形と同形で、単数形か複数形起源の形かは区別できない。estar: ¿Cómo estás vos? (Martínez, 2003: 42), ir: Si te vas, llevate tus chivas de una vez. (s.v. chiva)
- 10) Pinkerton (1986: 693) で “tú verb” と “vos verb” としているものを{単数動詞形}と{複数起源動詞形}とした。

### 引用文献

- 日本国外務省各国情勢「グアテマラ共和国」<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/guatemala/data.html>> (2006/10/25)
- 堀田英夫 (2003) 「コスタリカ・スペイン語の待遇形式」『愛知県立大学外国語学部紀要言語・文学編』第35号223-236.
- リップスキ、ジョン・M. (2003) 『ラテンアメリカのスペイン語：言語・社会・歴史』浅若みどり他訳、南雲堂フェニックス
- Armas, Daniel (1971) *Diccionario de la expresión popular guatemalteca*, Tipografía Nacional/Editorial Piedra Santa, Guatemala, CA.
- Benavides, Carlos (2003) “La distribución del voseo en Hispanoamérica” en *Hispania* 86.3, 612-623.
- Carricaburo, Norma (1997). *Las fórmulas de tratamiento en el español actual*, Arco Libros, Madrid.
- Espasa-Calpe, S.A. (1978) *Diccionario Enciclopédico Espasa*, Espasa-Calpe, S.A., Madrid.
- Kany, Charles, E. (1951) *American-Spanish Syntax*, The University of Chicago Press, Chicago & London, 2<sup>nd</sup> Edition, 5<sup>th</sup> Impression 1967.
- Lipski, John M. (1994) *Latin American Spanish*, London, Longman.
- Lipski, John M. (1996) *El español de América*, Cátedra, Madrid.
- Martínez, Juan Carlos (2003) *¿Qué onda vos? Expresiones populares, Palabras vulgares, Dichos*, Autor, La Antigua Guatemala, CA.
- Páez Urdaneta, Iraset (1981) *Historia y geografía hispanoamericana del voseo*, La casa de Bello, Caracas.
- Pinkerton, Anne (1986) “Observations on the Tu/Vos Option in Guatemalan Ladino Spanish” en *Hispania* 69, 690-698.
- Quesada Pacheco, Miguel Ángel (1996) “El español de América Central” en Manuel Alvar ed.(1996) *Manual de dialectología hispánica – El español de América*, Editorial Ariel, S.A., Barcelona.



- Real Academia Española & Asociación de Academia de la Lengua Española (2005) *Diccionario panhispánico de dudas*, Santillana Ediciones Generales, S.L., Madrid. <<http://www.rae.es/>> (2006/8/31)
- Soto, Iriana(2003a) *Castellano como segunda lengua con método comunicativo funcional (preprimaria)*, Ministerio de Educación (TIJONIK PA KA'IB'TZIJOB'AL) Dirección General de Educación Bilingüe Intercultural, Guatemala, CA. <[http://www.mineduc.gob.gt/Administracion/dependencias/Centrales/digebi/textos\\_2004/Niv%20Infantil%20EBI/castellano\\_como\\_2L/Castellano%20como%20L2%20preprimaria.pdf](http://www.mineduc.gob.gt/Administracion/dependencias/Centrales/digebi/textos_2004/Niv%20Infantil%20EBI/castellano_como_2L/Castellano%20como%20L2%20preprimaria.pdf)> (2006/10/21)
- Soto, Iriana(2003b) *Castellano como segunda lengua con método comunicativo funcional (primero)*, Ministerio de Educación (TIJONIK PA KA'IB'TZIJOB'AL) Dirección General de Educación Bilingüe Intercultural, Guatemala, CA. <[http://www.mineduc.gob.gt/Administracion/dependencias/Centrales/digebi/textos\\_2004/Niv%20Primaria/castellano\\_como\\_2L/1eras\\_paginas.pdf](http://www.mineduc.gob.gt/Administracion/dependencias/Centrales/digebi/textos_2004/Niv%20Primaria/castellano_como_2L/1eras_paginas.pdf)> (2006/10/21), <[http://www.mineduc.gob.gt/Administracion/dependencias/Centrales/digebi/textos\\_2004/Niv%20Primaria/castellano\\_como\\_2L/castellano%20como%20L2.pdf](http://www.mineduc.gob.gt/Administracion/dependencias/Centrales/digebi/textos_2004/Niv%20Primaria/castellano_como_2L/castellano%20como%20L2.pdf)> (2006/10/21)
- Wikilibros <Español/La conjugación/El voseo> <[http://es.wikibooks.org/wiki/Espa%C3%B1ol/\\_Voseo](http://es.wikibooks.org/wiki/Espa%C3%B1ol/_Voseo)> (2006/9/20)

## Formas de tratamiento del español en Guatemala

HOTTA Hideo

El *Diccionario Panhispánico de Dudas* (DPD) de la Real Academia y la Asociación de Academias divide Hispanoamérica en tres áreas según el grado de aceptación del voseo en la norma culta de cada región. El DPD describe que en América Central el voseo goza de aceptación en la norma culta, pero que también el tuteo es una norma prestigiada que se recomienda en situaciones de formalidad intermedia.

En este artículo hemos tratado de observar las formas pronominales y verbales del voseo y los parámetros que intervienen en la selección entre “vos”, “tú” y “usted” en el español de Guatemala. La base de esta investigación se ha centrado en los informes de los estudiosos y también en los materiales de enseñanza del español para los niños y niñas mayahablantes editados por la Dirección General de Educación Bilingüe Intercultural del Ministerio de Educación de Guatemala.

Quedan por aclarar algunas formas como el presente indicativo de “haber” y las formas del futuro. La selección entre “vos”, “tú” y “usted” depende del grado de la familiaridad, la solidaridad, la cortesía y el distanciamiento que el hablante quiere mostrar cuando habla, lo que puede resumirse en la siguiente tabla:

	voseo	tuteo	usted
familiaridad	+	+	-
solidaridad	+	-	-
cortesía	-	+	+
distanciamiento	-	-	+

El uso del voseo es normal en el lenguaje familiar del español en Guatemala, sin embargo no ha alcanzado un uso prestigiado que pueda servir de modelo para la enseñanza del español como segunda lengua.